

平戸には、かつてお菓子をこよなく愛したお殿様がいた。一八四五年、平戸藩主・松浦家第三十五代熙公の命によって作成された「百菓之図」には百種類のお菓子が極彩色で描かれている。

「平戸 百菓繚乱」はこの百菓之図から、平戸市内の五軒の菓子店がそれぞれ一品を選び、現代風に復刻アレンジしたお菓子である。「お殿様への献上品」をイメージしたという朱地に金のイラストがあしらわれたパッケージは、華やかで美しい。その優れたデザインは「長崎デザインアワード二〇二二」の大賞にも選ばれている。

百菓之図に描かれている「花かすていら」をモチーフにした新たなお菓子「果の花」を作り上げたのが、この地で五百年以上にわたって菓子づくりを続けている、つたや總本家の二十四代目当主・松尾俊行さんだ。花かすていらは、カステラ生地の中にあんこが入ったお菓子だが、松尾さんはこの花かすていらを現代風にアレンジ。バターなどの乳製品を使い、濃厚な味わいに仕立て直した。開発にあたっ

て大切にすることを松尾さんはこう語る。「お菓子はその土地のシンボルであるべきだと思えますし、ストーリー性が重要です。平戸は一五五〇年のポルトガル船の入港以来、文化や食材など新しいものが入ってきて発展したまちです。私はそういう歴史を大切にしながら、平戸に根付くお菓子を作りたいと思っています」。

松尾さんは百菓之図についても、興味深い話を聞かせてくれた。「百菓之図にはお菓子の絵と材料は載っていますが、詳細なレシピは書いてありません。それを現代の職人が経験と想像をもとに復元していくわけですが、中には今の技術をもってしても、どうやって作ったのか分

異国の風を感じる

平戸市

現代に
よみがえった
お殿様への
贈り物



平戸 百菓繚乱

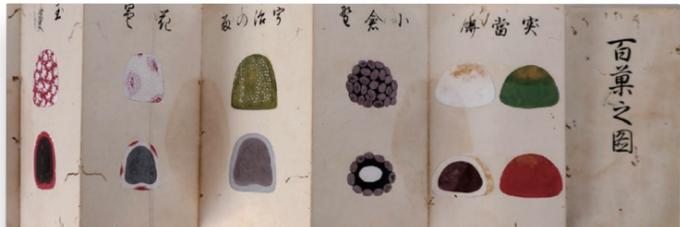
つたや總本家の24代目当主・松尾俊行さんは「新たなお菓子が城下町平戸のブランドになってほしい」と話す。店舗は築400年を超える建物で、歴史の重みを感じる。

からないお菓子もあります。江戸時代の菓子職人の腕には脱帽しますね」。先人たちへの尊敬の念は、心を込めた丁寧な菓子づくりへとつながっている。「平戸 百菓繚乱」は第二弾も動き出しているという。次はど

んなお菓子が生まれるのだろうか。「平戸の菓子文化を後世に残したい」と百菓之図を残した熙公の願いは、この土地の菓子職人たちの手によって確かに受け継がれている。

百菓之図

一八四五年に作成された「百菓之図」には南蛮菓子を取り入れたものや、平戸独特の和菓子が多く描かれている。(個人蔵)



【牛蒡餅本舗熊屋】
「若紫」をモチーフにした
鈴虫の夢



【津乃上製菓】
「つばきもち」をモチーフにした
月光



【菓子工房えしろ】
「希さちいな」をモチーフにした
陽の恵



【firando】
「かごぼうる」をモチーフにした
四季



【つたや總本家】
「花かすていら」をモチーフにした
果の花

